

各地からのニュース

阿波まなべ会より

この8月には第81号の阿波まなべ会報誌が発行され早速手元にお送りいただいた。会報誌の紙面には、今まで活躍してきた思い出深い活動の記録写真が掲載されていて、平成21年11月18日の真鍋島探訪の集合写真に目をくぎ付けされた。また、照夫会長様の丁重な時候挨拶とともに、三好市の市長に新しく女性の高井美穂氏が就任された記事が掲載されている。また新型コロナウイルス感染症下のオリピックの成功問題、今回の豪雨による熱海市の土石流被害発生、そして国際関係や国内問題など多岐にわたる分野へ関心を寄せられていることが分かる。わたしどもは、常日頃から多面にわたって関心を持ち、危機管理意識を涵養せねばならないことを教えらるるのであった。

阿波まなべ会 会報第81号の発行
阿波まなべ会 会報第81号の発行
阿波まなべ会 会報第81号の発行

思い出の写真



第31回阿波まなべ会総会

総会での記念写真(平成22年2月11日)

←まなべ公園のまなべ碑前(平成21年11月28日)

笠岡諸島から

笠岡諸島の有人七島をかたどり、各島の特色ある味覚を取り入れたクッキーが発売された。このお菓子は、笠岡市金浦にある社会福祉事業会の笠岡学園が考案して発売に至ったものである。新たにキャラクターを作り、このほど日本遺産に指定されたこの地域のPRに一役務めている。ちなみに、真鍋島のクッキーにはヒジキなどが練りこまれていて健康に甚だ良さそうである。このクッキーのパッケージにはキャラクターの七人の漫



山陽新聞掲載

笠岡学園 島の形クッキー発売
「笠岡諸島」食べちゃおう
「特色の味練り込む」キャラクター考案
笠岡学園の島々をかたどり、各島の特色ある味覚を取り入れたクッキーが発売された。このお菓子は、笠岡市金浦にある社会福祉事業会の笠岡学園が考案して発売に至ったものである。新たにキャラクターを作り、このほど日本遺産に指定されたこの地域のPRに一役務めている。ちなみに、真鍋島のクッキーにはヒジキなどが練りこまれていて健康に甚だ良さそうである。このクッキーのパッケージにはキャラクターの七人の漫

伊予の切山から

伊予の切山は、幼少の安徳天皇を五人の側近たちが御守りして阿波からこの地へ移ってきて凡そ半年間過ごしたと言われている土地です。その後、三豊市詫間町の須田湊から西海に下って行ったのです。この故を持って平家落人の里として由緒ある歴史遺跡が多くあります。この地区では、「平家の里 切山」としてPRされていて、散策の名所にもなっています。またこの地区には珍しい「生木地蔵」が木の幹本体に彫られたものがあります。この地蔵さんの由緒について看板が設置されています。このパネルに標記されている文章をお知らせします。

生木地蔵の由緒

昭和五十五年八月

約三百年前 生きた鹿子の大木に仏師鈴木庄兵衛さんが地蔵を彫刻その母体を通じ、天に地に広く恵みを授ける延命地蔵で耳の神様として知られている

近年この老木が天命を完了したので同所にある同じ鹿子の大木に昭和五十四年十一月十七日 平家遺跡保存会により復元建立

彫刻は観音寺市本大町 萩田文昭(三十八才)師が丹精こめた二ヶ月間の力作この地蔵は生木と共に生を同じうしている(他所には生木に取り付けた縁切地蔵さんもあるとの事)

全国でも希な仏様であり昭和五十四年十一月七日NHKテレビで全国放送の放映があった

川之江観光協会
切山遺跡保存会



↑左の建物の中にあるのが初代、その右奥の木に彫られているのが2代目生木地蔵→

千葉の元與会長さまから

拝啓 全国大会がないため、長い間お逢い出来てなくすっかり、ご無沙汰しております。その後のかがお過ごしでしょうか。先日は、國六さん最後の編集となりました「全国まなべ会 会報第61号」を送付いただき有難うございました。すぐにお手紙お出ししようと思いましたが、種々多用な事情によりご返事遅くなり大変申し訳ございませんでした。今回号の会報記事を拝見させていただきましたが、國六さんの広報部長ご担当は、第31号からと伺いました。全30号・15年間という長い年月を、盛りだくさんの情報をご提供いただき、また、まなべ会の会員と会員の横の連帯意識形成にとっても貢献されたことに敬意と感謝の気持ちでいっぱい입니다。本当にありがとうございます。今後ともよろしくご指導ください。またお逢いできる日を楽しみにしております。 敬具

オーストリアから

この7月の21日にオーストリアの友子さんから暑中お見舞いのお手紙を頂戴しました。このコロナ禍で大変な時に所用で帰郷されたとのことでした。厚生労働省の規則により、十四日の隔離生活や、また、一日に三〜四回の状況確認や検問の電話が掛かって来たようです。その他アプリによる顔の確認など大変難渋を強いられたようであります。都合15日間の帰郷計画のため、四国への墓参は出来ずじまいとなったようです。

このところ、各地間の移動は大変な状況であり、役所の細かい指示は大変疲れをもたらすようであります。

また千葉の介護施設に友人を訪ねました折、友人が記した自叙伝を頂きました。ところがウィーンへ戻り、この書籍に目を通し読んでいた最中に計報が届き、果然としましたと文面に認めておられました。東京でお会いしたときには、お顔も艶やかでありましたのに、彼女の本を手にしたまさにその刻に計報の報せに接した思いを記しておられました。

この着地点が見えないコロナ感染の異常事態であります。わたしも今後とも免疫力の付く食品摂取やうがい、手洗い、そして三密の回避などに留意した生活に努めたいと思います。今後ともご家族の皆様、ご健勝で楽しい時間を持たれますよう祈念申し上げ返礼の挨拶とさせていただきます。

コロナ感染下での雑念

令和3年8月3日の夕方、某民放局のニュース放映の中で、倉持仁医師が総理と東京都知事に対して「お二人ともお辞めになった方がいい」との怒り発言をされた。この発言の根拠になった原因は、そもそも、コロナ患者の入院対象を重症者に限定し、重症リスクの低い中等症患者は自宅療養にするという政府の方針転換に対して、コロナ治療の最前線にいる医者立場からこれは容認できないものであるとの強い意思表示を示されたものである。

コロナのデルタ株は、より手ごわくなっているのに、血中酸素飽和度の計測機器だけ渡して自宅療養方式をこの一年半やってきているが、この最大緊急時に際して、言っていること、実際の施策の間には大きな隔たりを感じたのであろう。この一年半の間に政府では具体的な方策を開示したのであろうか。今回の決

定発表に対して、早速与党の一部や野党からも反対の意思表示がされたのである。この結果この政府案は早速撤回されることになった。

実のところ、今回のコロナ感染問題については、一時は小康状態になっても、今後も感染の波が数次にわたって予想されることは、昨年の春から岡田晴恵先生などが指摘されていた。また感染状況によつては医療崩壊が起ることとも想定されるため、プレハブ形式救護施設又は多人数収容の診療施設の準備などの事前対応策を勧めていたのである。然るに無策といえようか、凡そ一年半が経った今回の政府提言である。また、急速なコロナ感染下でのオリンピック祭典の強行である。自然に逆らった炎天下での夏開催実施となる。出来るものと出来ないものの区別も出来ないでいた。スポンサーやIOCの商業主義・利益主義が日本国民

の生命より優先するという実態（本質）を炎天下に晒すことになってしまった。

ここで、政府関係者やJOCなどの利害関係者の危機管理意識や未来予測能力について言及してみたい。先ずコロナ感染問題であるが、まずもって公衆衛生問題については、甚だ脆弱かつ閉鎖的意識しか持っていなかったと考えるのである。公衆衛生部門の予算削減を行っている。例えば保健所の縮小などである。しかも隣の中国などには、人に感染する新型「鳥インフルエンザ」の感染症問題が既に十年あたり前から発生の危険性が指摘されていて、メディアや書籍などにより情報発信されていた。また2019年（令和元年12月）末から中国武漢市で発生した新型コロナ発生に際してもご存じのような対処である。ここで大切な概念は、すなわち危機管理意識である。論理学で言えば、国政上一番留意せねばならない重要上位概念であることである。為政者がせねばならないものは「国民の生命と財産を護る」、「外敵から国体を護る」こと

である。

コロナ問題については、昨年の春ごろから感染症学会の権威者から諸々の指示や指摘がされていたが、今回の医療崩壊（第5波流行）も想定されておき、それに対処する施策案も昨年には出されていた。またワクチンの早期手配も考慮されていたが、政府の施策推進の実態は御承知の通り遅滞拙速の状況であった。この段においては、未来展望による想定力が大切であり、また関係機関の統合的連携が重要であるが、機能的、統合的な連携プレイは不足していたと考える。

まずもって、感染症が発生したおりに官民共々の留意すべき基本は次の事項であらうか。

- ① 感染有無の検査実施と陽性者の分別隔離の推進
- ② 過密状況からの逃避そしてうがい、手洗い洗顔、鼻腔洗いの励行
- ③ 過密空間の強力換気や設備の設置である。（パチンコ店での客間の集団感染が言われていないのが不思議である）

国民のそれぞれの人にとつては

- ④ 身体の免疫力が就く食べ物摂取を日常的に図る（ニンニクや生姜など）こと、などである。

今回、重大な感染症問題に日本も遭遇しているが、この問題に対して適格な防御態勢や解決法を即座に国民に提示できなかったことが不幸の始まりであった。これは政治家の怠慢性と官僚機構の硬直性からくる他力本願姿勢の結果と思える

それでは、近代化の時代を迎えていた江戸末期ごろの国内状況はどうであつたろうか。開国と共に、日本国においてもコレラや風疹などの感染症問題に遭遇している。当時の医者や為政者たちは大変な状況に立ち至っていたのであるが、緒方洪庵はこのコレラ患者に必死に対応しているのである。隔離などと共に水質の改善など処置しているが、この頃すでに外国から医療処置法も移入され学んでいるようであつた。洪庵は命を懸けて対応していたのであるが、徳川幕府の奥医者となつて多忙

な業務に就いたため命を縮めたとも考えられる

では、この期における政府を中心としたチームの対応について言及してみたい。まずワクチンの手配、医療崩壊を前提とした感染者の受け入れ設備の確保、保健所の受け付け対応の想定（保健所機能の縮小をこれまで図ってきた事実）、マスクや医療機器の備蓄や検査キットの備蓄手配などの欠陥、これらを列記してみても、いかに脆弱な管理体制であつたことが分かる。

しかも重要な事柄を見ていると、これまでには隣国においては危険な感染症が発生（例えばサーズ、マーズの感染症事例）していたにもかかわらず、日本国では何ら対策法の学習と準備をしておこなつたのかどうか、である。無論、感染症の専門家は未来予測の観点から研究を進めていたと思うのであるが、最悪事態が発生したときの対処法については、情報の共有や実践についての協同作業推進については、前もって総合的に学習できているかと思うのである。結果は今日の状況を見れば首肯できるのでなかろうか。おおよそ政治家を含めて官僚機構は事が発生しなければ行動を始めないという習性があるようである（丸亀城の石垣崩落の危険性は十年余り前から有識者から指摘されていたが、結局崩壊してから動き出した。従つて大きな予算計上を強いられるという無駄が発生するのである）。

この様な国難は、既に既述のように江戸末期には日本人は押し並べて遭遇しているのである。例えばコレラなどが日本へ流入していたのであるが、当時の為政者や医師たちは大変な状況に置かれていた。例の外国人排除運動である「攘夷運動」の原因の一つが、コレラを持ち込む外国人を排斥しようとしたものともいわれている。

ところで、この幕末時代に活躍した人物として福山藩の藩主阿部正弘であるが、彼が筆頭老中の時に取り立てられたのが「関藤藤陰」である。藤陰は阿部との連携により時代を切り開いている。この両者が実行したことは諸々あるけれども、この中で未来を見

- ① 歴史的考察力（過去の方策事例の把握や検索など）
- ② 将来の展望力（将来発生する問題点の把握、想定など）
- ③ 政策立案力（解決のための方策、手段、人材・資材等の確保など）の三大指標である。

* 広島市の福山市にある「県立福山誠之館高校」はその後裔となる学校である。この誠之館の教育指針は、現代においても通用するものであり、昨今のコロナ感染問題を考えるとき、現今の関係機関がこれまで実施してきた施策の良否について比較検討する場合には、解りやすい行動目安になるのではなかろうか。現状の実態を鑑みてみて

想うとき、江戸時代末期の賢人たちは誠実かつ真剣な態度で事に対処したと思うのである。また備中松山藩の偉人山田方谷の「至誠惻怛」の理念に鑑み、如何に現代人は軽薄

で無機質な人間になったものと気がかかるのである。如何にデジタル化社会になつても、操縦する主体者はあくまで人間であり、汗水を流して現場を観察・熟知しない人達の見識には疑問符が付くものである。このような難関に立

つている時こそ、為政者は「至誠惻怛」の心情を持つて事に対処してほしものである。また私たち国民も為政者の理の態度をじっくり観察したいものである。

で無機質な人間になったものと気がかかるのである。如何にデジタル化社会になつても、操縦する主体者はあくまで人間であり、汗水を流して現場を観察・熟知しない人達の見識には疑問符が付くものである。このような難関に立

つている時こそ、為政者は「至誠惻怛」の心情を持つて事に対処してほしものである。また私たち国民も為政者の理の態度をじっくり観察したいものである。

これまでの政府関係者及び地方行政機関そして医療機関の間での連携は甚だ脆弱であつたと考えられる。また地方機関にあつては中央政府にもたれ掛かる気配があり、とくに東京都の小池知事においては、昨年には毎日衣装を変えてマスコミに対峙していたのである。一年半にわたる日が経過したのであるが、ただやっ



岡山の備中井原から

岡山県の西部に位置する井原市は、江戸時代には一橋藩の飛び地があった。若い頃、一橋藩の武士になった渋沢栄一は、藩の兵士募集のためこの地にやって来ている。

今年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」の主人公はこの渋沢栄一である。渋沢栄一については、わたしどもの「讃岐まなべ会」、「全国まなべ会」そして丸亀市

の明治文庫の会が発行している「明治文庫の会会報」第三十五号の各会報誌に投稿してきた。投稿に至る趣旨は、今日における危急存亡時においては、硬直的で閉鎖的な組織体制では現状打開は難しいのである。国民の積極的関与が無ければ危機突破はできないのではないのか。

こんな時代にあつてこそ開拓者魂が有り、誠実に事を処する力、即ち「内に」とられず、事の外にいて処す」という大局的観点から果敢に実践する方策を採る人材が必要である。しかし現状の国政における為政者からでは難しいように観られる。現状へ至つた理由の把握力、そ



渋沢栄一

ところ「江戸末期には、備中松山藩の山田方谷という逸材が登場して藩政改革を推進し、国策についても諸々提言している。また福山藩の関藤藤蔭など、身近なところに有能人材がいた。



関藤藤蔭

ところで「讃岐まなべ会報誌」を私の友人である毛利恭一郎氏へ差し上げたのですが、何



山田方谷

と彼のお母さまは井原市のご出身とのことで、彼はこの会報誌を関わりのある井原市観光課の方へ送付されたとのことでした。

これらの会報誌は最終的に市長様の手元に届き閲覧されたのでした。その結果、思いも寄らずにわたし宅に突然市長様からご礼状が送付されて参りました。縁は異なものと思し

原市の市長様をはじめ市民皆様の誠実で前向きな「我が郷土を愛し誇りを持つ本気度」の意思による地域創生の姿勢が読み取れるものでした。勝手ながら、ここに全文をご披露させていただきますとともに、井原市の益々のご発展と市民皆様方のご健勝ご多幸を切に祈念するものであります。(7頁に掲載)



(市長様からの丁寧なる返礼文面)

拝啓 新緑の候 真鍋様におかれましては、ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、毛利恭一郎様から「讃岐まなべ会会報第26号」のご紹介をいただきました。

隣県ではあるものの、離れた地において、本市と渋沢栄一の関わりが取り上げられていることを知り、大変感激いたしました。

ご承知のとおり、現在放映中の大河ドラマ「青天を衝け」の主人公 渋沢栄一は、本市を訪れた際、興譲館高校初代館長である阪谷朗廬と親交を深め、また農兵募集を大成功させるなど大きな功績もおさめました。渋沢が世に出るきっかけの地ともいえる本市が、ドラマそのもののや、ドラマの舞台を紹介する「紀行」のコーナーでとりあげられることを期待しているところです。

こうしたことから、渋沢ゆかりの地として、PR活動委員会を設立し、官・民・学が一体となって歴史の再発見と地域の魅力発信に取り組んでおります。

井原市としても、市広報やパンフレットでの啓発、歴史講座や企画展を開催してまいりました。本年度は、六月から翌年一月の会期で、井原市文化センター「古代まほろば館」にて「渋沢栄一と井原」特別展を開催する予定です。ぜひお立ち寄りいただけますと幸いです。

最後に、真鍋様におかれましては、お身体には十分お気をつけいただきまして、ますますご健勝にてご活躍されますよう、心からお祈り申し上げます。 敬具

令和三年五月十一日

井原市長

大舌

勲

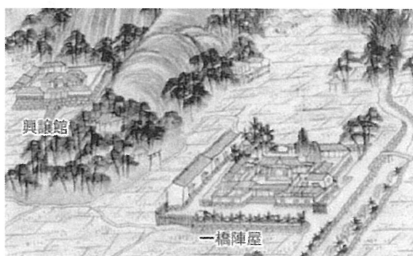


興譲館

嘉永6年(1853)に郷校として開校。安政4年(1857)に建てられた校門に掲げられた「興譲館」の扁額は、朗廬と親交があった栄一が明治45年(1912)に揮毫(きごう)したものである。

また、創建当時の姿をとどめている講堂も、栄一が当地を訪れ、朗廬と面会した場所として記録されている。

興譲館高校初代館長 阪谷朗廬



一橋陣屋跡

文政11年(1828)、現在の井原市を中心に3万5千石余りが一橋領となる。慶応元年(1865)一橋家の家臣であった栄一も、この陣屋を訪れ、農兵を集めるため、代官と協議したことが資料に残る。



古代まほろば館

井原市から出土した考古資料を時代順にわかりやすく展示しているほか、市内の文化財や歴史の問い合わせも可能。企画展やさまざまな講座も開催している。



馬越恭平の銅像

渋沢栄一ゆかりの地と人物

馬越恭平

まごし・きょうへい(「うまこし」「まこし」といった読み方もある) 井原市木之子地区の医師の家に生まれる。大阪での修業を経て実業家を志して上京した。三井物産で頭角を現し、赤字続きの日本麦酒へ派遣され、1年で再建に成功。大合併で誕生した大日本麦酒社長を亡くなるまで務めた。銀行、鉄道など多くの業界にかかわり、日本工業倶楽部会長や衆院議員としても活躍。故郷の小学校や橋の建設に多額の寄付をし、井笠鉄道の初代社長に就任した。

四国新聞 平成11年1月1日掲載



気象学者
真鍋 淑郎

(愛媛)

地球温暖化 研究に活用



気候の変動を予測

真鍋博士は、気候変動の予測に、過去の気候データを分析し、数値モデルを用いて未来の気候変動を予測しています。特に、地球温暖化の進行を予測し、対策を講ずるために重要な役割を果たしています。

四国4新聞社合同企画



アフガニスタンの首都陥落

この8月17日の新聞各紙は、アフガンの首都カブールが16日に反政府組織タリバンの侵攻占拠により陥落したと伝えている。この国のガリ―大統領は出来る限りの貨幣を自動車に積み込んで脱出したと伝えている。彼は首都決戦を行えば多くの犠牲者が出るのを回避するため、あえて交戦せずに退避したと声明したようである。

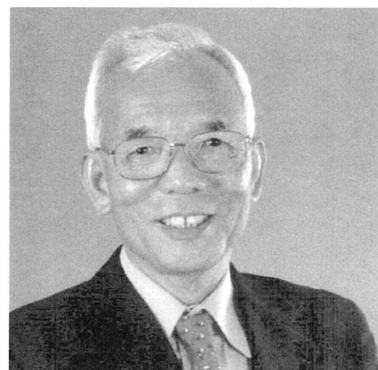
この首都陥落は、アメリカのバイデン大統領が撤退の凡その日付を8月31日と事前に発表していたことから雪崩を打つように速く陥落したようである。もともと、先のトランプ大統領が反政府勢力のタリバンとの間でアメリカ軍の段階的撤退協定を取り交わしていたのである。今のバイ

デン大統領はこの国民との約束履行を早速実施しようと、この8月末を目途に発表していたものである。問題は、トランプとバイデンの新旧大統領間で国策的または国際的観点から重要事項の引継ぎや申し合わせが出来ていなかったことである。そもそも、アメリカ国内政治社会の分断・亀裂を象徴するものとして現出したものである。

これまで多額の物的、人的な援助を多年にわたって推進してきたが、特に近代的武器などがタリバン側に渡ってしまっている現状は大変深刻な問題である。

ところで、ここ両年のアメリカ

ノーベル物理学賞受賞の真鍋淑郎先生を祝って



真鍋淑郎博士

本年度の物理学賞には、愛媛県四国中央市(新宮)ご出身の真鍋淑郎博士が受賞されました。わたしども同姓の「まなべ」一族にとっては、真に喜ばしくお慶びを申し上げたいと存じます。

近年の気候変動や環境悪化を身近に感じるようになって、やっと経済成長一点張りの施策では、地球温暖化が進み地球が早晩悲鳴を上げるのではと危惧するようになってきたのである。欧米を主体とした新自由主義政策は弱肉強食の生存競争を進め、やがて需要と供給とがアンバランスになって国家間の競争激化が勢い進んでくる。また国内間においても富の適正分配が進まなければ、生活格差の拡大が顕在化してくる状況になってくる。

某国においては、第二次大戦前の植

民地政策のような資源搾取をしているのである。未発展国資源開発のため、未発展国へ資金を貸し付け、返済が滞ればその国の資産の一部を取り上げ、永久借地という手段を実行したりしている。また進出した工場などの建設には相手国の住民を使用せずに、自国民を連れて労働させるため、相手国には小さい資金しか残らない。従って未発展国内の資金還流は小さいものになる。また設備が劣悪であれば、環境被害も多くなり、何時まで経っても国内資金蓄積は増加しないのである。これらはいわゆる南北問題として提起されているが、今もCO₂の排出や公害の積み増しをして撤退するのである。

またブラジルでは農産物品増産のために、森林の伐採と焼却を行い農地の



ブラジル・アマゾン森林伐採、94%は違法

の拡大を図っている。このため大量のCO₂を発生させているが、現大統領は無視して開発をすすめている。またアフリカにおいても希少金属のレアメタルの開発など進めて環境を悪化させている国もあるようである。都市希少金属の回収による再生品活用との兼ね合いもあると考えられるが、資源のリサイクルを鋭意進めるべきと考えるのである。新規開発の道は避ける方策を採ってみたい。

現在の未発展国の今後の成長問題、そして一部見られる軍拡競争国家の鉱物資源の大量使用などには多くのエネルギーを必要とするが、これらを考えてみてもCO₂の拡散問題がある。残念ながら先進国と未発展国との間には大きな経済格差があるため、意見の一致をみないのである。国連機能を高めて各国が同一方向を見いだせるものに出来な

いか問われるのである。

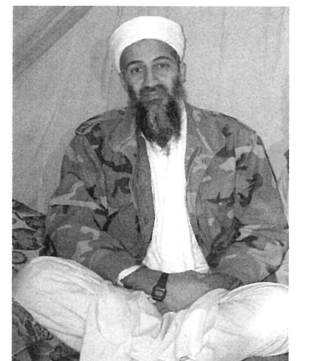
今日に至っては、この地球温暖化による環境悪化の問題解決が国家間の共通課題となって来ている。この地球全体が近い将来存続の危機を迎えていると世界各国に提言したのが、「国連の気候変動に関する政府間パネル」すなわちIPCCという国際機関である。地球環境の実態と将来の展望について数値資料をもって警告したのである。平成2年(1990)にIPCCは第一次報告書を公表したのである。その内容は「人間の活動に伴う温室効果ガスが大気中に排出され続けば、生態系や人類に重大な影響を及ぼす気候の変化が生じる恐れがある」と警告したのである。この警告については、前年の平成元年(1989)フランスのアルシュ・サミットで開催された先進国首脳会議で、温暖化問題が初めてこのサミットの主要議題になったことからである。そして平成9年(1997)の京都議定書採択、平成17年(2005)の京都議定書発効、また平成19年(2007)には米国の元副大統領ゴア氏とIPCCにノーベル平和賞が授与されたのである。この提言を裏付ける数値「データ」を作成した中心人物が、今回ノーベル物理学賞を受賞された真鍋淑郎氏である。先生の地球の将来を見据えた先見性と地道な研究実績が、今後地球の安寧性を護



2001年9月11日 同時多発テロ

方側の外交および軍事的な施策を観てみると、アメリカ政府側のあまりにも拙劣な外交戦術であったと思える。撤退するにしても、手の内を相手側に見せたものであり、これがアフガン政府軍兵士側の士気にかかわるものである。凡そ、この国は多民族国家であり、以前から主導権争いをしてきたため国の統一性に欠けていて、しかも賄賂利権社会でもある。アメリカが撤退した後に起こりうる問題点の想定をもしていたのか、甚だ疑問符の付くところである。

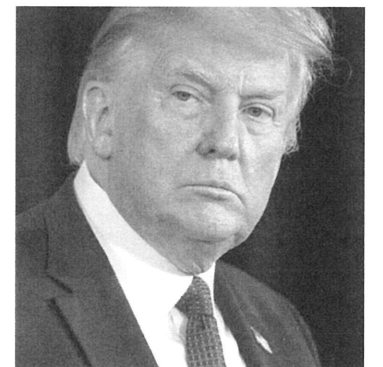
この国は、かつてはソ連が10年間もこの国のゲリラと戦闘をしたが、



ビンラディン容疑者

ソ連の武力でもってしても支配出来なくて結局撤退したという歴史背景がある。侵攻するにも、撤退するにも、特に撤退時における処置行動は大変難しく、戦国期の戦いにおける殿の務めは大変だったのである。

アメリカは、20年前の2001年9月11日のアルカイダ一派から同時多発テロ攻撃を受けたことにより、当時のアフガニスタンのタリバン政府がウサマビンを囲っているとの理由でこの地に空爆を開始し、政権を崩壊させるに至った。その後アメリカ政権は、アフガニスタン政府側へ武器供与や政府軍兵士の訓練、アメリカ軍の投入などで肩入れしてきたが、初期の目的を達成できないで今日に至っていた。この国では、多くの部族が乱立し、しかも宗教的な色合いも違い、そもそも統一性の難しい問題もあった。そして国民の国家への帰属意識が脆弱であるという民度の低い面もあったと考えられる。その後アメリカにおいてはイラク



トランプ前大統領

への介入事態もあり、この中東地域への財政支出は大きくなってしまった。そのうえアメリカ国の自国兵士の死傷者が多くなってきたことで、国内世論も厳しい状況になってきていた。他国のために自国の兵士を殺すのかという「自国第一主義」世論の高まりが観られるようになってきたのである。先の保守党大統領のトランプは特に実利主義者であり、この頃からアフガンへの政策姿勢を変更してきて、当地からの段階的撤退を唱えるようになったのである。その後、前述のようにトランプは撤退に関する協定を結ぶことになる。この約束を履行するための実施政策を今回のバイデン政権は推進することになった。このアメリカの姿勢変更が、アフガン政府軍や国民の気持ちに変化をもたらすことになるのである。一気呵成に状況が悪化してきた。アメリカの実利主義政策推進の結果による

敗北と考えても良いのではなからうか。

ともかく、アフガンの首都カブール飛行場周辺では非常に混乱しており、アメリカや同盟国の非戦闘員などへの救出方法は困難を極めるのではなからうか。これらの難儀を想定できないほどの急速なタリバン側の侵攻と支配であった。

＊追記

その後カブール市内はタリバン側の支配となり、その上、別個の反タリバン組織であるイスラム国（IS）の自爆テロが発生して多数の死傷者が出た。このためこの地域は不安定となっている。8月末を期してアメリカなど関係国は自国民などをアフガンから撤退させている。その中で日本国における計画は成功せずに失敗している。これは先ずもってアフガンにて業務をしていた大使をはじめ館員の拙劣な行動の結果である。日本大使館と関わるアフガン人を見捨てて大使館員がイの一番に帰還したのではないし、こういう国内情勢が急変に至る情報の確保と臨機の対応も出来ないでいた。まさに国際的な笑い種になる事態である。

お知らせ

① 本年度の全国大会開催について

昨年度の第40回全国大会は、「新型コロナウイルス」による感染影響により、順延となりましたが、本年は、外出規制などの対策で、感染者数も減少傾向にあります。今後、第6波発生の可能性、皆様の健康を考えると多方面から多人数参加での開催は無理と考え、本年度も順延しなければならないとの結論に達しました。

② 全国大会開催回数について

一昨年の尾道大会は、第39回目の開催でしたが、今回の開催については、第40回記念大会として、岡山笠岡での総会、真鍋島での開眼供養を行います。

③ 令和2年度の決算、令和3年度の予算、事業活動関係の報告は、本号(会報62号)で報告します。疑義や質問がありますれば「事務局」または「財政部」の方へご照会下さい。問題点のご指摘が無ければ、承認されたものとして同じ取り扱いとさせていただきます(令和2年度の監査については眞鍋照夫氏、眞鍋雅文氏ご両名の監査を4月30日付で頂いております)。

連絡先⇒事務局長 眞鍋澄夫 Tel&Fax 0897-36-3652・財政部長 眞鍋國六 Tel&Fax 0877-33-4512

令和2年度事業報告

1. 会報第60号(1,100部)、61号(1,100部)をそれぞれ発行致しました。
2. 全国まなべ会役員会申し合わせによる各地区まなべ会宛の補助金を令和3年1月15日付にて振込みました。振込み総額は75,200円。(参考、前年度は82,600円)
3. まなべ島五稜郭公園の保守管理契約に基づき、阿部建設に清掃を行ってもらった。年間保守契約料金(7万円)
4. 令和2年10月25日付にて、各地区まなべ会々長宛に新全国役員の推薦依頼を行った。
5. 全国本部執行役員会議を令和2年9月16日、令和3年3月6日に開催した。(高松市の光廣会長事務所)
第40回大会は「新型コロナウイルス」による感染影響により、来年度に順延する。令和3年3月10日、全国地区会長宛てに全国大会延期連絡を郵送した。
6. 令和3年5月1日現在、全国顧問、理事、評議員等全国役員は165名と当会運営の基礎を維持致しております。

令和3年度事業計画

1. 会報第62号を10月下旬に、63号を3月下旬に夫々1,100部を発行する。なお、役員会費、および会報助成金のご依頼振込用紙は第63号に、同封して発送する。
2. 全国役員会を令和3年10月、令和4年3月に開催する。
・「全国まなべ会総会」開催のやり方
・まなべ島五稜郭公園の保守管理契約に基づき、阿部建設に清掃を行ってもらっている年間保守契約料金(7万円)の見直し
3. 各地区会長宛てに全国役員推薦の依頼を行い全国役員の増強を図る。これにより本会発展の基礎を確立して次世代に引き継ぐこととする。
4. 超高齢化社会を踏まえて、組織拡充(役員改選・・・)の方策を皆で考えることとする。

令和2年度一般会計決算

収 入		支 出	
摘 要	予 算	実 績	予 算
年 会 費 (全国役員)	643,000 #5,000×54	270,000 #5,000×52	260,000 #3,000×84
会報助成金 (一般会員)	109,000	100,000	612,000
広 告 費	40,000	0	0
寄 付 金	30,000	13,000	0
雑 収 入	11,500	700	0
貯金利子	6	7	0
小 計	724,506	625,707	601,402
前期繰越金	2,188,177	2,188,177	2,196,183
合 計	2,912,683	2,813,884	2,813,884

次期繰越金明細は普通貯金 事務局長通帳 0円
國六財政部長通帳 912,482円
國六財政部長定額貯金 1,300,000円
合 計 2,212,482円

令和3年度一般会計予算

収 入		支 出	
摘 要	予 算	金 額	小 計
年 会 費	643,000	69,000	69,000
会報助成金	109,000	0	0
広 告 費	40,000	0	0
寄 付 金	30,000	0	0
雑 収 入	11,500	0	0
貯金利子	6	0	0
小 計	724,506	69,000	69,000
前期繰越金	2,188,177	0	0
合 計	2,912,683	69,000	69,000

次期繰越金明細は普通貯金 事務局長通帳 0円
國六財政部長通帳 912,482円
國六財政部長定額貯金 1,300,000円
合 計 2,212,482円

注1: 予算執行に際して各項目間の流用を認めるものとする。